

玉川学園の宗教教育と礼拝堂

玉川学園の校歌は、他校に比べて著しい特徴をもっている。それは3番の詩句である。

「神います み空を仰げ神はわが^{とお}遠つみ祖^{おや}……」

創立当初から歌われたこの校歌に、玉川学園の心がそのまま盛られていると言えよう。

人間であれば、だれでも心の深いところで神ないしは神的な何かに触れる。また、触れることがなければ、真の人間は育たない。その機会を与えること—これが玉川における宗教教育の理念であった。特定の宗派に限定せず、広い意味での宗教心を一人ひとりの心に持たせたいという意図は、時代に応じてさまざまなかたちをとりながらも、終始一貫して玉川教育を支えてきたのである。

宗教教育の目に見えるシンボルとして、校歌と共に生きているもの、それが礼拝堂であろう。礼拝堂は、本間俊平先生の全集（当時の玉川学園出版部）の印税が基金となったため、「本間礼拝堂」と命名された。昭和5年6月、聖山の丘の上に礼拝堂建設が開始され、同年10月13日、献堂式をむかえることとなった。（「玉川学園50周年史」の記述参照）



昭和5年10月13日晴れ。10時半より献堂式が開始された。

奏楽、さんび歌、聖書朗読……

遂に我等の父、敬愛の的本間先生にお話をして戴くことになった。言葉ははっきりとわからぬ所もあった。併し、日本の教育を憂えられた先生の非常に熱心なる御心、何と言っても感謝の



他はない。先生のお祈り、校歌、祈祷、感激に燃えつつ式は終わった。昼食は三角点に於いておむすびを頂いた。晚6時半よりお客様の家において談話会があった。8時半より夜の聖山でお祈りをして床につく。今日は感謝の1日だった。

（「学園日記」より）

改修工事にあたり

現在の礼拝堂は竣工当初の姿とは若干変わっている。基本的な外観や内観を維持しながらも、外部廊下の変更、構造補強、外壁の張り替えなど、度重なる修繕を経て今日のような姿になった。

2012年5月、約半年間をかけた耐震補修工事が行われ、2階から天井を支える2本の柱の補強と構造壁を増設し、床や天井にも補強をほどこした。

また、屋内の補修には建築デザインの専門家である梅園真咲さん（高等部91年卒・旧姓藤村）の案で、身体に安全な漆喰が採用された。壁や天井に漆喰を塗る作業は、軍手をした手で直接仕上げる手法を取り入れた。さらに、震災で一部破損したパイプオルガンの修理も行った。

椅子は、買換えの案もあったが、全ての椅子を一端解体し補強をして、既存の形をできるだけ残すことにした。その4人掛けの椅子の中に、やや丈の低い椅子がある。これは昭和6年にパイプオルガンを購入したときの梱包資材から作られた椅子である。



礼拝堂にパイプオルガン

が設置されたのは昭和6年。

この当時、パイプオルガンは日本にまだ4台しかなく、創立者の小原國芳先生は、昭和5年の欧米教育視察の際、アメリカの教会でパイ



初代のパイプオルガン

プオルガンの厳かな音を聞き、「宗教教育」にパイプオルガンは欠かせないという強い信念を持たれた。國芳先生は、オルガン制作世界一の会社であるシカゴのキンボール社に行き、直接交渉の末、パイプオルガンを購入。7月20日、横浜の港から玉川の丘に運ばれ、技師の指導の下、中学生が手伝いながら組み立てられ、約2カ月後の9月13日には、礼拝堂で初演奏会が行われた。

礼拝堂献堂式 式次第

平成24年5月28日(月)

午後2時



玉川学園

式次第

司 式：菊池重雄
オルガン：中村岩城
合 唱：大 学 生

詩編 127:1

主御自身が建ててくださるのでなければ
家を建てる人の労苦はむなしい。
主御自身が守ってくださるのでなければ
町を守る人が目覚めているのもむなしい。

歴代誌下 6:1-2, 18-21

ソロモンはそのときこう言った。
「主は、密雲の中にとどまる、と仰せになった。
荘厳な神殿を
いつの世にもとどまっていただける聖所を
わたしはあなたのために建てました。」

神は果たして人間と共に地上にお住まいになるでしょうか。
天も、天の天も、あなたをお納めすることができません。わたしが建てたこの神殿など、なおふさわしくありません。
わが神、主よ、ただ僕の祈りと願いを顧みて、僕が御前にささげる叫びと祈りを聞き届けてください。そして、昼も夜もこの神殿に、この所に御目を注いでください。ここはあなたが御名を置くと仰せになった所です。この所に向かって僕がささげる祈りを聞き届けてください。僕とあなたの民イスラエルがこの所に向かって祈り求める願いを聞き届けてください。どうか、あなたのお住まいである天から耳を傾け、聞き届けて、罪を赦してください。

エフェソの信徒への手紙 2:20-22

(あなたがたは) 使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです。

マタイによる福音書 5:13-16

「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。 そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

頌 栄 539番

あめつちこぞりて かしこみたたえよ、
みめぐみあふるる 父、み子、みたまを。

讚美歌 210番

1 3
きよきところを つくれよと、 かわらぬ愛の イェス君よ、
あまつみかみの のたまいし みかみの宮に ましましし
むかしの日より 今もなお いにしえおmoi なつかしむ
み民にそえる めぐみかな。 われらといつも ともにませ。

2 4
めぐみの父の 住みたもう ともにまします みたまこそ
きよき宮居を きょうここに、 くらきをてらす ひかりなれ、
また見ることの たのしきよ、 とわにかかわらず てりたまえ、
いく千代かけて かわらざれ。 われらのうちに、 この宮に。

頌 栄 541番

父、み子、みたまの おおみかみに、
ときわにたえせず みさかえあれ。

前 奏

序 詞

頌 栄 539番

聖 書 詩編127：1

歴代誌下 6：1-2, 18-21

エフェソの信徒への手紙 2：20-22

讚美歌 210番

祈 禱

献堂の辞

祈 禱

聖 書 マタイによる福音書 5：13-16

祝 辞 (小原芳明理事長)

献 金

頌 栄 541番

祝 禱

後 奏